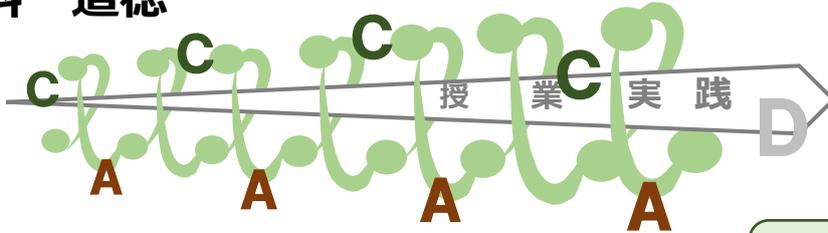


# 特別の教科 道徳

**P 指導計画**  
終末に  
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ  
学校の教育目標が  
具現される。

## C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

生徒の  
つぶやきや  
様相から Check!

□Check5  
・活動を振り返り、自分の生き方や考え方と照らし合わせて考えているか。

「〇〇（道徳的価値）ということについて考えていくことは大切だと思った。」

「これからは〇〇（道徳的価値）について学んだことを生かしたい。」

□Check6  
・これからへの思いや課題について考えているか。

「主人公の思い（考え）を支えていたのは、〇〇（道徳的価値）があったからだ。」  
「〇〇（道徳的価値）については、私は～だと思ふ。」

□Check4  
・道徳的価値について考え、理解することができているか。

「こんな思い（考え）があった。」  
「迷う気持ちも理解できる。」

「なるほど、そういう考え方もあるな。」  
「どうして、そう考えるのかな。」

□Check2  
・人物の思い（考え）について自分との関わりで語れているか。

□Check3  
・仲間との話し合いの中で、多面的・多角的に考えることができているか。

「主人公の～な考えや行動について考えたい。」  
「〇〇（道徳的価値）で、～だと思ふけどどうかな。」

□Check1  
・教材の内容に興味や関心をもっているか。  
・主題に関わる問題意識をもっているか。

**考え、議論し、自己の生き方  
についての考えを深める道徳**

## A 授業改善のポイント

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、単なる心情理解にとどまるのではなく、**Check 4**にあるように道徳的価値について考え、理解することが重要です。そして、**Check 5**にあるように、これまでの自分を振り返り、道徳的価値についての理解を基に、自己の生き方についての考えを深めていくことが大切です。こうした学びの過程が、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成することにつながります。

### ☞ 1 教材の内容に興味や関心をもつには

・児童自身が、本時を何について考えていくのかという問題意識をもつことが大切です。そのために、ペープサートを用いたり、範読の工夫をしたりする等の方法が考えられます。また、精選した情報を提示することが想像をふくらませることもあります。

### ☞ 1 主題に関わる問題意識をもつには

・「この資料を通して考えたいことは何か。」といった発問を通して、児童自身が本時の主題について自覚することが大切です。

### ☞ 2 人物の思い（考え）について自分との関わりで考えるには

・教師の発問は、児童が自分との関わりで考えたり、多面的・多角的に考えたりするために重要です。考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問など、意図的な発問を心がけることが大切です。  
・動作化や役割演技などの表現活動を行い、人物の気持ちを考えさせることで、それまでに気付かなかった思いや考えに気づくことができます。

### ☞ 3 話し合いを充実させるためには

・話し合いの際には、「考えを出し合う」「まとめる」「比較する」など、目的をはっきりさせて話し合うようにすると、話し合いがスムーズに進みます。  
・討議形式で進めたり、ペアでの対話やグループによる話し合いを取り入れたりするなどの工夫が考えられます。

### ☞ 4 道徳的価値について考え、理解するには

・授業のねらいに深くかかわる中心発問を通して話し合うことで、道徳的価値についての理解を深めていくことができます。  
・児童の反応を予想し、さらに深めていくための補助発問を考えておくことも大切です。

### ☞ 5 活動を振り返り、自分の考え方と照らし合わせて考えるためには

・「分かったことや考えたこと」など、自分を見つめたときに思ったことや考えたことを文章にまとめることで、心にとどめておくことができます。  
・教師の説話を通して、資料から児童自身の生き方につなげていくこともできます。

### ☞ 6 これからへの思いや課題について考えるためには

・「これからどうしていきたいのか。」について考えることで、今後の発展へとつないでいくことができます。



ここに示したものは、あくまでも一例です。周りの同僚の実践や、学習指導要領解説編なども参考にして授業改善を図りましょう。